

環境技術実証モデル事業（山岳トイレし尿処理技術分野）における実証対象技術の
選定について

平成16年7月15日
静 岡 県

1 趣 旨

環境技術実証モデル事業の山岳トイレし尿処理技術分野について、平成16年度の実証対象技術を選定した。

2 選定技術の概要

平成16年6月21日（月）から平成16年7月2日（金）まで、実証対象技術の募集を行なったところ、2件の申請があった。

静岡県山岳トイレし尿処理技術実証委員会（委員長：中崎清彦静岡大学工学部教授）を設置し、形式的要件や実証可能性、環境保全効果、先進性等を検討し、環境省と協議の上、実証対象技術1件を選定した。

[実証対象技術]

生物処理方式（かき殻を利用した浄化循環式トイレ）

有限会社 山城器材 （京都市山科区西野山中鳥居町156 18）

3 環境省実証モデル事業について

(1)事業の概要

既に適用可能な段階にある先進的な環境保全技術でも、客観的な評価がないことにより普及の進んでいない状況がみられる。

環境省では、このような環境保全技術について、環境保全効果等を客観的に実証することにより、環境技術の普及を促進し、環境保全と環境産業の発展を促進することを目的としたモデル事業を昨年度から実施している。

本県は、山岳トイレし尿処理分野において、本年度、実証機関に選定された。

(2)今後の予定

7月中旬 実証試験計画策定

7月下旬 実証試験開始

3月 中間報告書作成

本技術の実証試験は、平成17年度に越冬後の分析を予定。

〒420 - 8601
静岡市追手町9-6
静岡県環境森林部自然保護室
Tel : 054-221-2963

実証対象技術の概要（静岡県）

生物処理方式（かき殻を利用した浄化循環式トイレ） 有限会社 山城器材

本装置の技術的特徴は、浄化槽、処理槽内の接触材として、かき殻を使用し、浄化能力を高め、懸濁物を吸着させている。また、かき殻がごく微量づつ溶け出すことにより循環水の中性に保つことができるものである。

排水処理装置は、6槽のFRP製タンクからなり、主たる処理機能は好気性微生物による生物処理である。各槽の有効水深は2m、総有効容量は約20m³、水理的滞留時間は約7日間となる。最後の循環ポンプ室には、活性炭10kg/本を充填した4本の活性炭吸着筒が設置されており、生物処理では除去しにくい着色物質の吸着を行なっている。活性炭を通過した処理水は、さらに、ポンプ室内に設置されたオゾン発生装置から発生したオゾンと光触媒により殺菌・脱臭される。

